

手元に財産がある理由は、人から財産を譲り受けたか、自分で築き上げたかの2つしかありません。当社は前者の「相続リッチ」ではなく、自らの能力と努力で富裕層になった人に対する情報提供サービスを展開しています。社内では、お客さまである彼らを、知識(インテリジエンス)と富(リッチ)を兼ね備えた新世代の「インテリッチ」と呼んでいます。

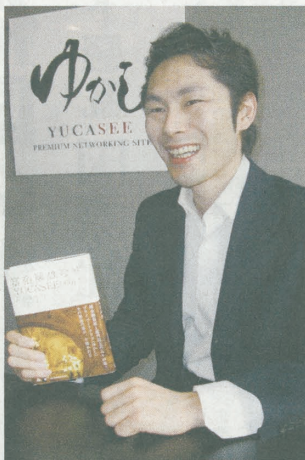
日本では、インテリッチは「自分にふさわしい場所が少ない」という悩みを抱え、必要な情報は富裕層の間から得ることが多い。「YUCASEE(ゆかし)」という純金融資産1億円以上の富裕層のためのSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を開設したところ、同じ境遇や悩みを抱えた人たちが集い、貴重な情報を交換しています。

《高岡壮一郎社長は東京大学卒業後、平成11年、三井物産入社。情報産業やM&A(企業の合併・買収)プロシエクトなどに携わった。17年6月

アブラハム・グループ・ホールディングス社長

高岡壮一郎さん

明日に挑む



にアブラハム社を設立。「ゆかし」などのコミュニティ事業のほか、会員3万5000人を抱える投資情報サービスや、企業への富裕層向けマーケティングコンサルティングを展開する。日本を代表する企業が富裕層向けサービスの口火をきった瞬間、「市場の二極化を公言していいんだ」という雰囲気が一気に広まり、雪崩を打ったかのように多くの企業が富裕層向けサービスを打ち出しました。

富裕層の悩み解消手助け

データ
アブラハム・グループ・ホールディングス 富裕層への情報提供、企業向けの事業開発やマーケティングのコンサルティング▽資本金2億6000万円▽本社・東京都港区▽従業員30人
▷ <http://abraham-holdings.com/>

「ゆかし」の会員は厳しい審査をパスした30~40代の現役世代が中心です。彼らは何を欲しているかという情報は、企業にとってのどから手が出るほど貴重なデータとなるのです。

《米ではマイクロソフトのビル・ゲイツ氏が慈善事業財団を設立し、途上国への支援を展開するなど、富裕層による慈善活動が普及。人々から羨望と尊敬の念を抱かれる存在だ。高岡氏は著書「富裕層はなぜ、YUCASEE(ゆかし)に入るのか」(幻冬舎)の中で、日本では富裕層が「自分が富裕層であること」を口にするのははばかられ

るほど、嫉妬の対象になっていることに警鐘を鳴らす。多くの国は、富裕層の投資と消費が経済の活性化をもたらす、社会全体の富の上昇を実現すると信じられています。日本では悪平等社会ともいわれる雰囲気の中で、富裕層は息が詰まるほどの処世術を強いられま

す。富裕層が海外へ逃避することになれば、日本の将来にとって一大事です。
日本の純金融資産は1500兆円で、その20%は上位1%程度の富裕層が有しています。日本に求められるのは富裕層が個性豊かに成長できる仕組みづくりです。当社の使命は「個人が活躍できる社会を創ること。インテリッチたちが求めるサービスを的確に提供することが、重要だと考えています。(小島清利)